

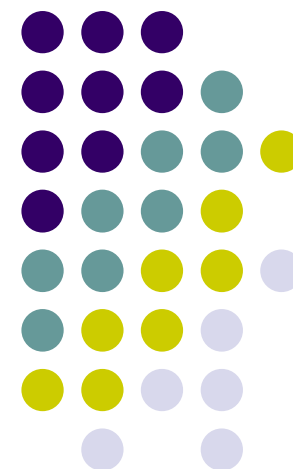
中央教育審議会初等中等教育分科会

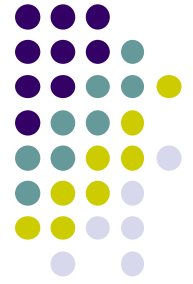
第3回 小中一貫教育特別部会

京 都 大 原 学 院 の 挑 戦 ～「学びの里づくり」をめざして～

平成26年9月19日

京都市小中一貫教育校
京都大原学院





今日お話ししたいこと

- 京都大原学院の成り立ち
- 京都大原学院の特徴・特色
- 5年間の成果
- 京都大原学院の使命と役割
- 今後の展開 課題克服のために

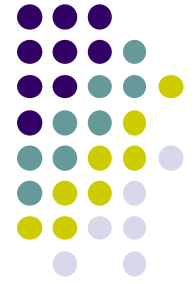


鯖街道

三千院

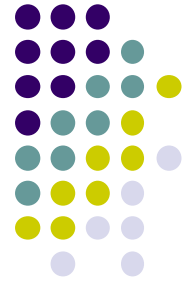


寂光院



紫蘇畑





京都市の特別風致地区 市街化調整区域

※1:京都市風致地区条例は、建築物その他の工作物の新築，改築，増築又は移転を認めない。

※2:市街化調整区域とは，都市計画区域のうち，市街化を抑制する区域に対して指定されます。この区域内では，開発行為，建築行為が原則として禁止されています。

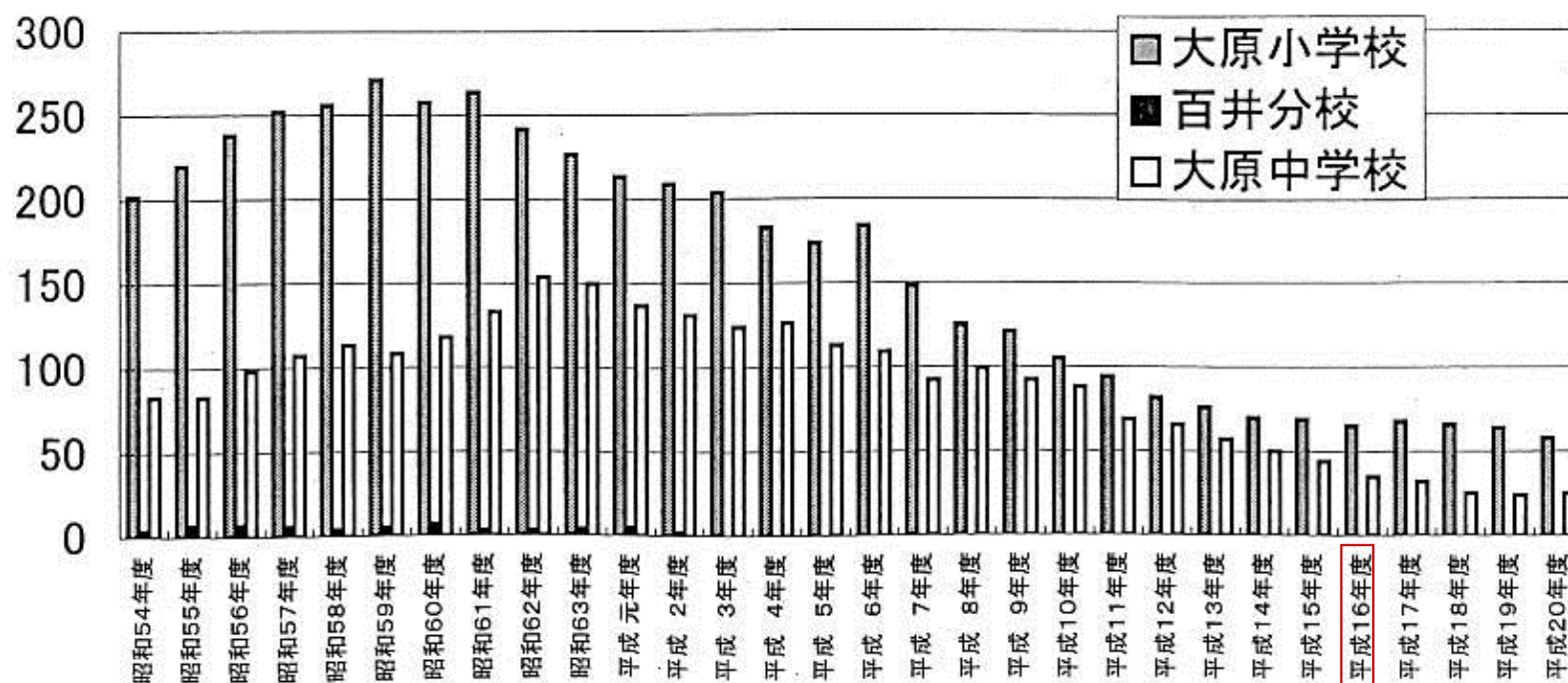
大原の人口 1969人(平成26年4月1日現在)





小中一貫校への道

- 少子化、過疎化、若者の流出により、地域文化の継承が困難になってきた



小中一貫校への道

- 「地域には学校がなくてはならない」
- 小中一貫校として9年間で地域の子どもたちを育てていく

若者が帰ってきて
自分の子どもたちを
学ばせたいくなるような
魅力ある学校づくり





校名への願い

- 平成21年4月3日に、「京都大原学院」の開設式が 行われました

院

ある目的のもとにきちんとした力を身につける



学校教育目標

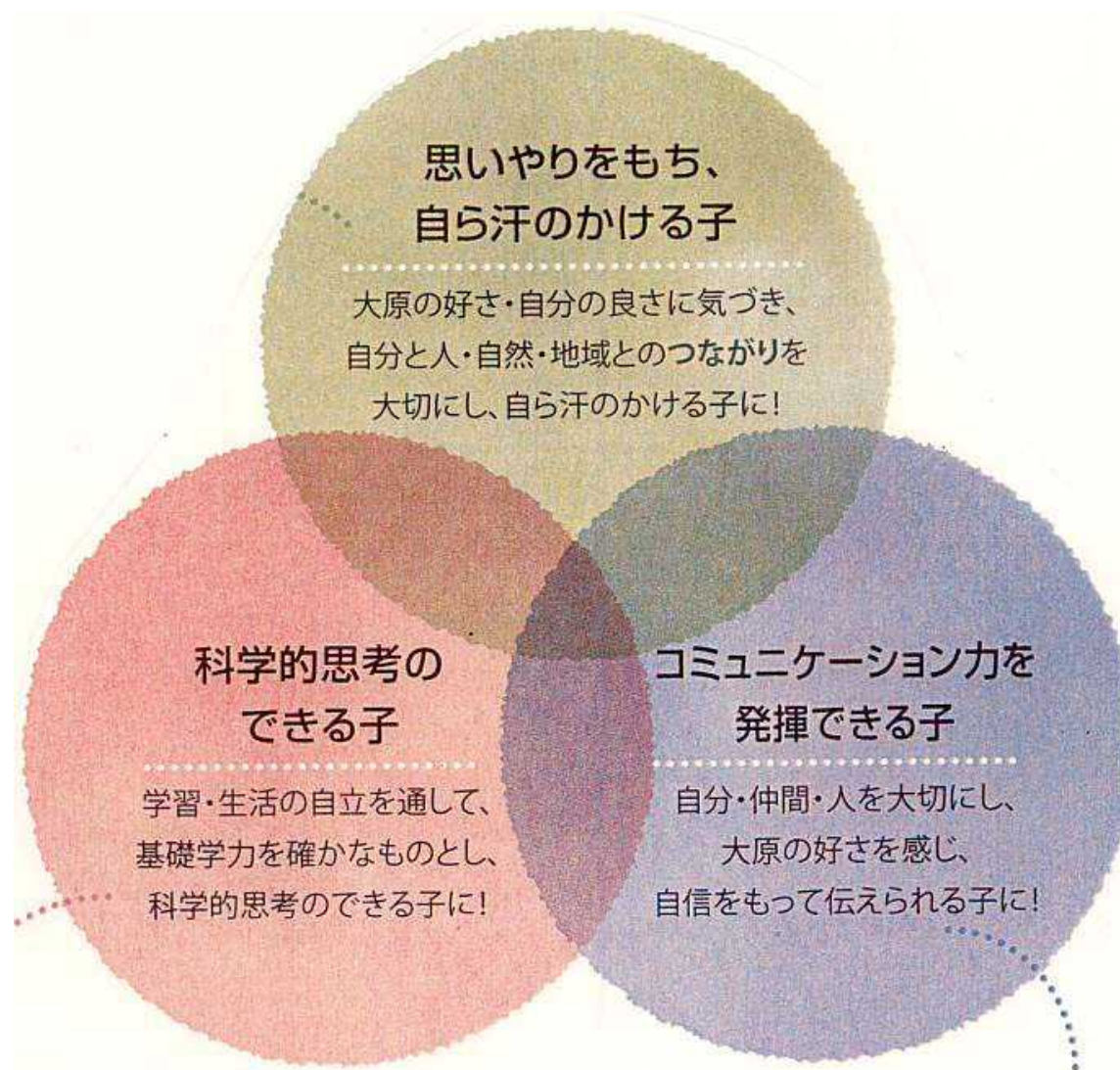


大原のゆとりある心を
自信をもって伝えられる子に！

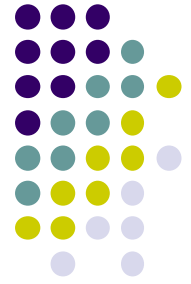
本来持っている素直で
まじめな自分の良さに気づかせ
自己表現できる子を育成する



3つのめざす子ども像



思いやりをもち、自ら汗のかける子



- 礼儀や規律、自立心を身につける

三千院・寂光院での地域行事

縦割り集団での清掃活動

農園活動での勤労生産活動、朝市販売など



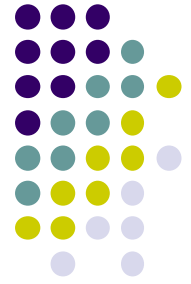


科学的思考のできる子

- なぜ？どうして？を大切にする日常生活
- 大原の豊かな自然を生かした学習
- 3年理科専科から系統的な学習



コミュニケーション力を発揮できる子



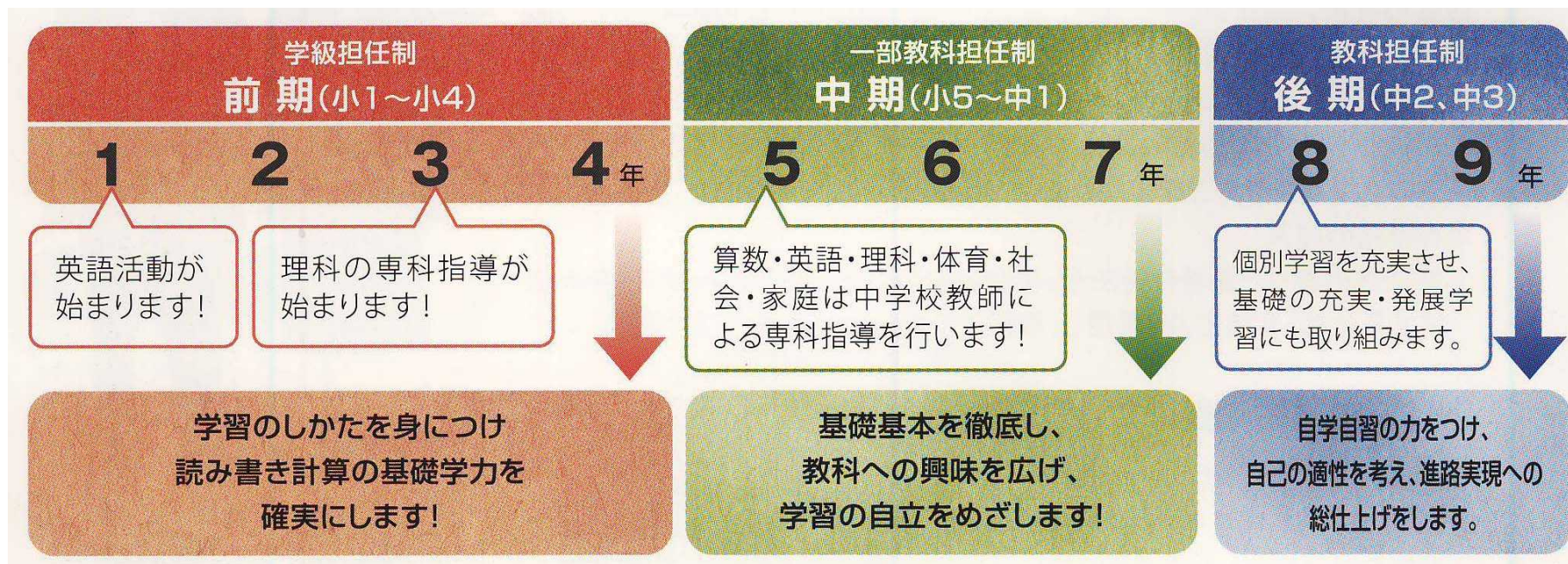
- 自分で考え、人に正確に伝える言語力の育成
- 英語を通して、コミュニケーション力をつける
 - 1年生から英語活動
 - 地域の支援でALT講師を招く
 - KCJS(アメリカ14大学の留学生)との交流
 - Do it in OHARAの実施



小中一貫教育の充実 ブロック制の導入

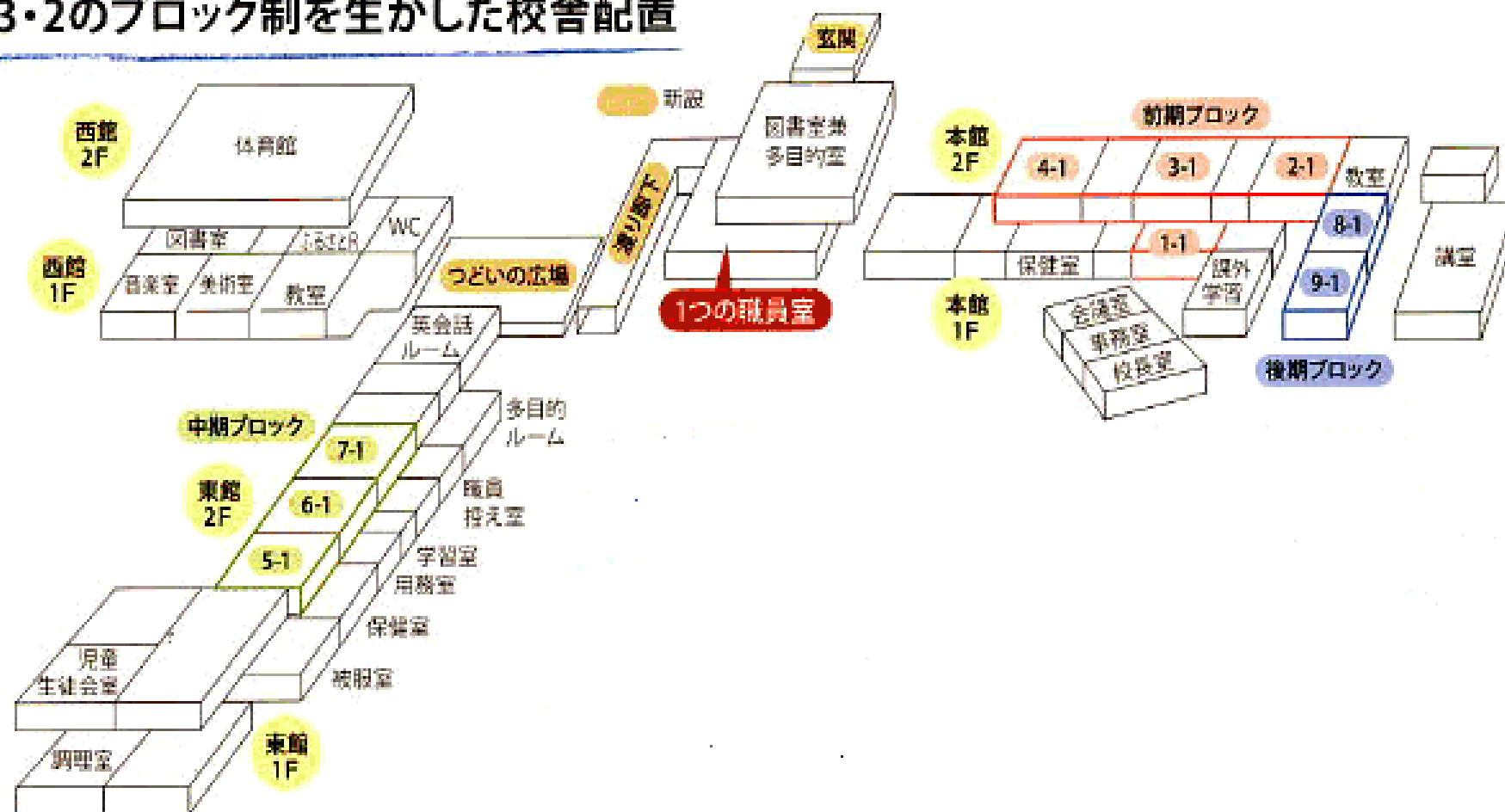


6・3制 ▶ 4・3・2制へ

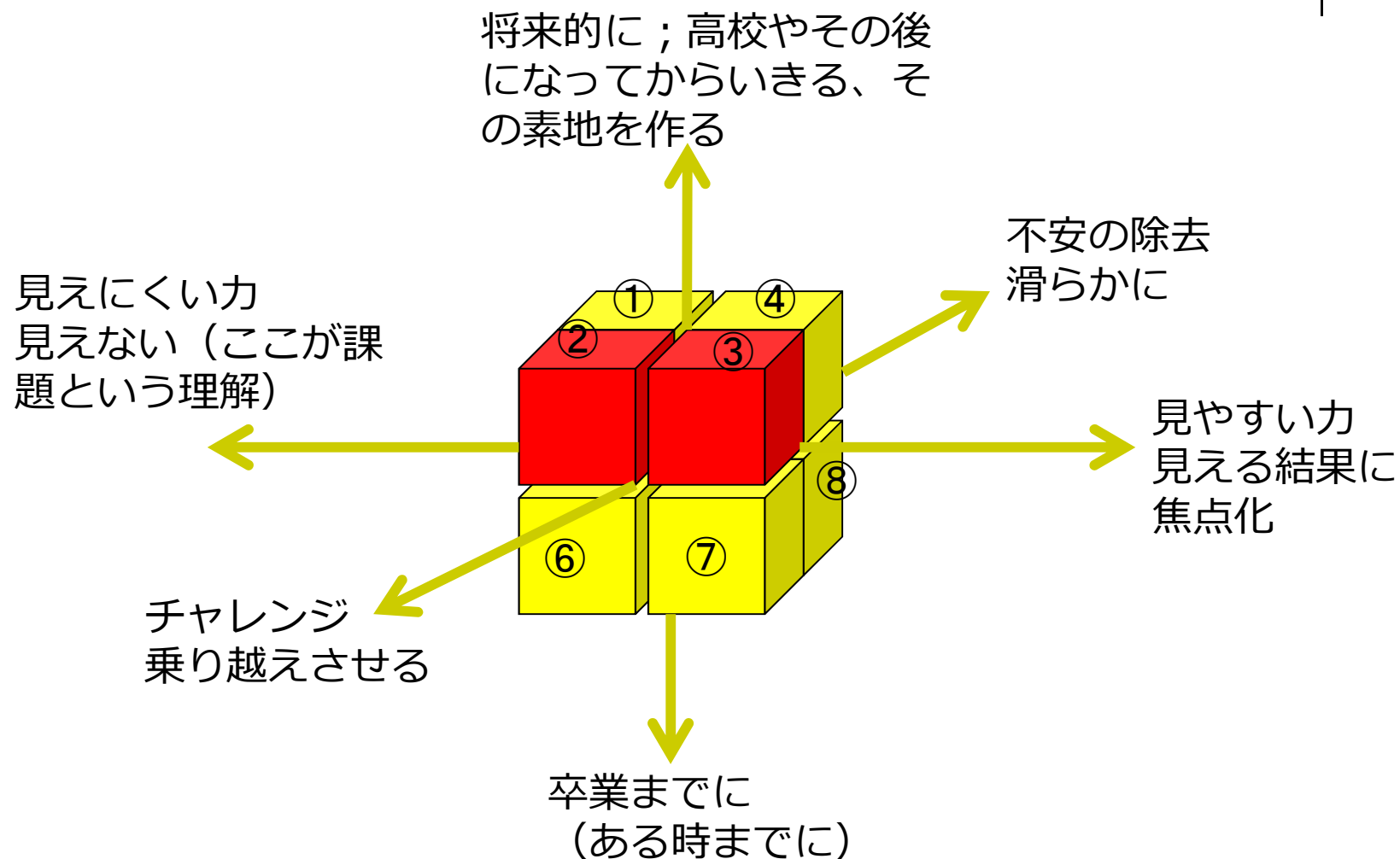




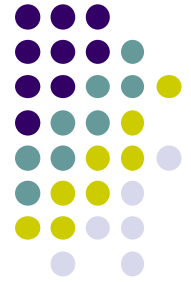
4・3・2のブロック制を生かした校舎配置



京都大原学院の力点の置き方



京都大原学院のコンセプト ～学びの里づくりをめざして～



地域(大原)を誇りに思い、
将来の大原をつくっていく人材になり得る
力をつける

- 小中一貫9年間で
- 学校と地域がともに関わって
- たくましい子どもをつくることで
- 地域の未来をつくりあげる

子どもは地域の未来をつくる宝

京都大原学院の特徴



- 地域の教育センターとなっている小中一貫型
コミュニティスクール

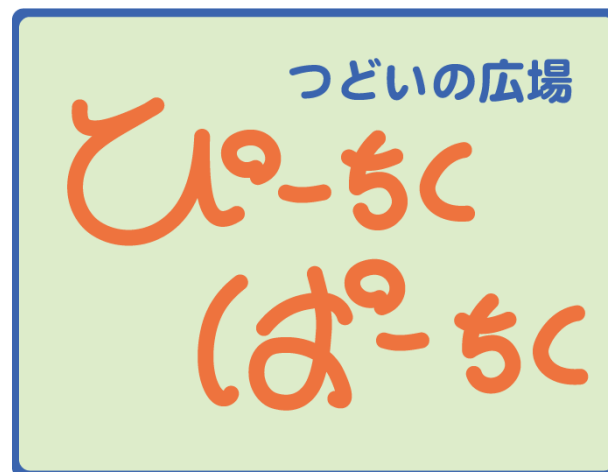
○ブロック制を中心にした小中一貫校

- ・小中隣接の立地を生かし、発達段階に合わせ、
9年間で子どもを育てる(学力、生活力、自立)

○地域の願いを中心に、地域の支援のもとで

作り上げるコミュニティ・スクール

- ・学校・保護者・地域が力を合わせ、子どもを育てる



若いパパママの
子育て相談
0～3歳のお子さんと





昼間里親施設

小野山わらんべ



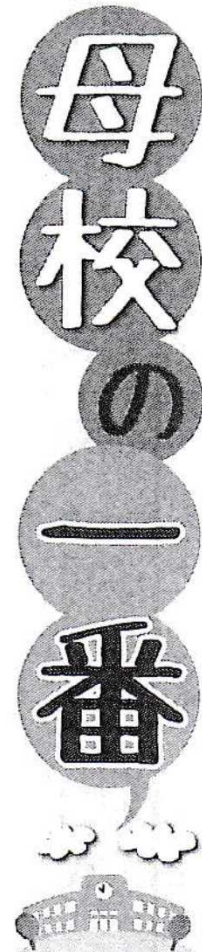
0～6歳の
家庭的保育



幼児の様子を見守る児童たち(京都市左京区・京都大原学院)



小中一貫 生かした教育





大原女行列 5月の日曜日

地域の写真





運動会(地元の八朔踊りを地元の方と)



運動会(1年生から9年生まで力を合わせて)

京成大原学院5年間の成果



小中一貫教育に加えて、保育機能と子育て相談機能を備えた総合的な教育機関ができた

地域と一体になって学ぶ機会、内容、環境が整ってきた

前期・中期・後期の取り組みを通じて、目標とする先輩の姿が明確になった

言葉の教育（外国語活動を含む）に組織的に取り組んできた

子どもたちが自分で目標を立て、達成を実感できる自律的な取り組みが組織できた





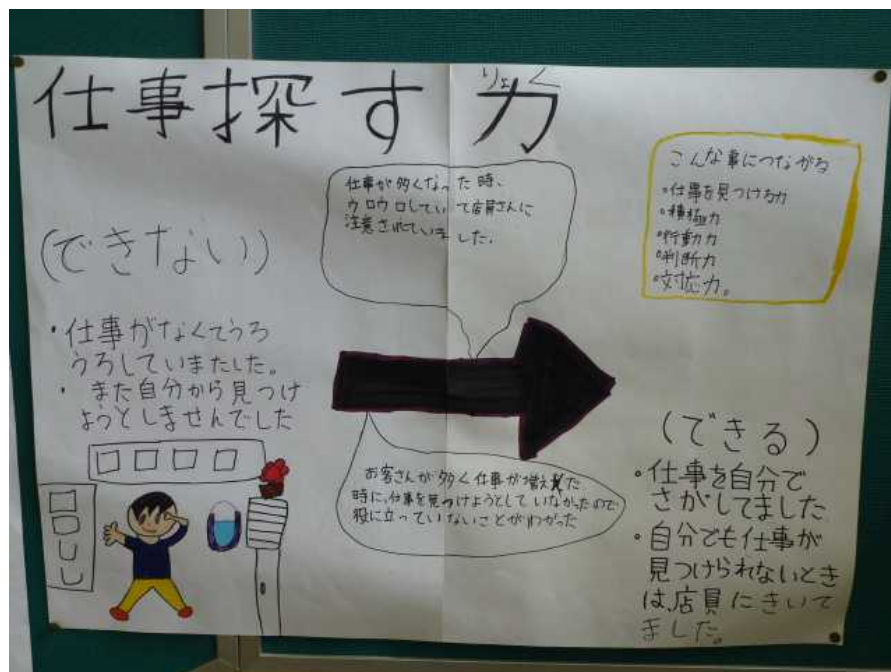
地域と一体になって
学ぶ 機会、内容、
環境が整ってきた



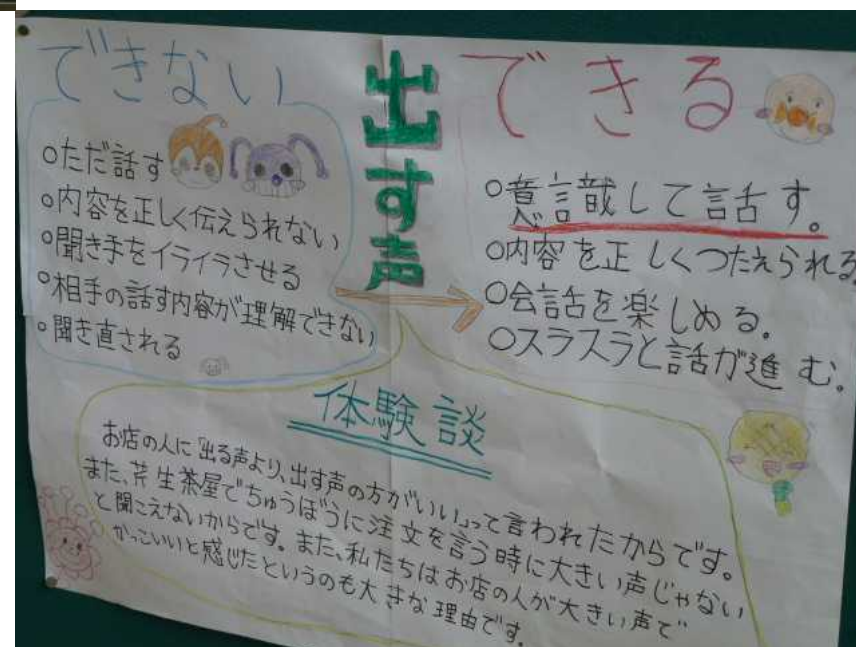
言葉の教育（外国語活動を含む）に組織的に取り組んできた





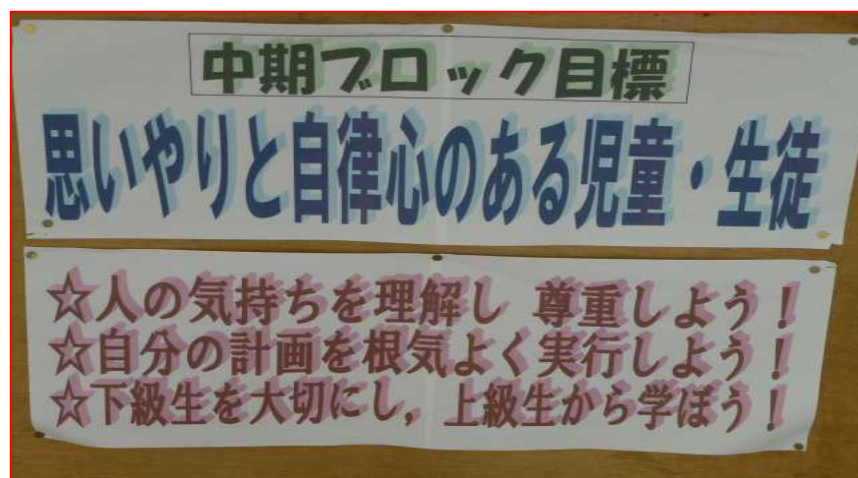


子どもたちが自分で目標を立て、達成を実感できる自律的な取り組みが組織できた





前期・中期・後期の
取り組みを通じて、
目標とする先輩の姿
が明確になった



人には厳しく、人には優しく
やりをもつ。
ことは積極的に進み、行動
勉強も行事も頑張る。

中辻歩美

色々な場面で
いろいろな人から
頼られる自分になる

多くの個人目標
①相手の気持ちを大切にできる自分
②言葉遣いや丁寧な自分
③周りをよく見て行動する

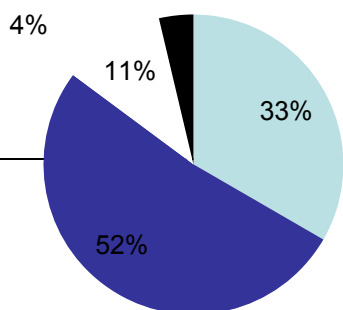
和田和樹

子どもたちへのアンケートより (H23とH25の比較)

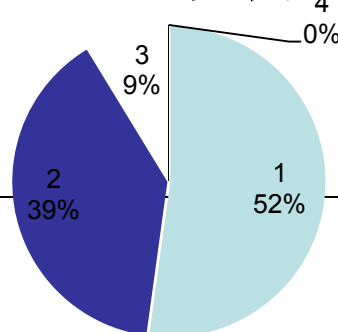
あなたはよく発表をしていますか？

■ 1.よく発表する ■ 2.時々発表する ■ 3.ほとんど発表しない ■ 4.その他

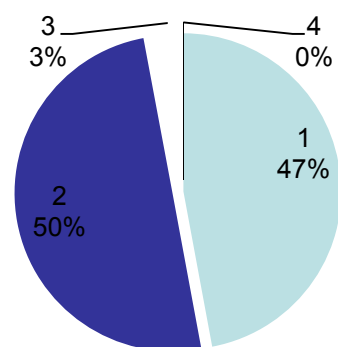
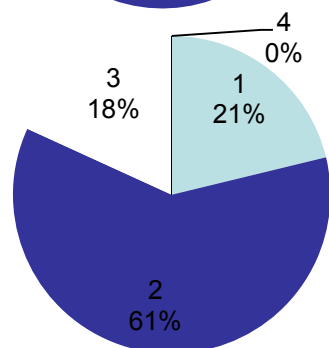
H23
前期B



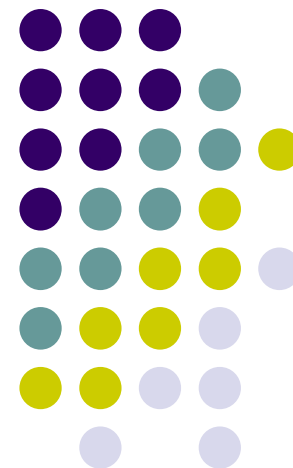
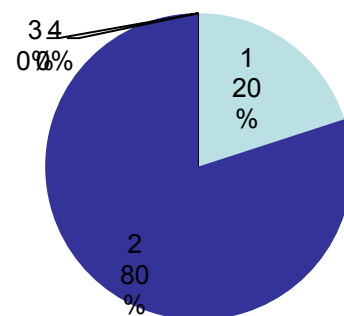
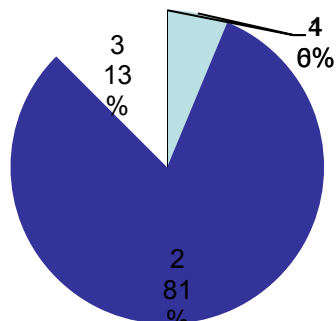
H25



中期B



後期B





学校評価アンケートより (H24とH25の比較)

- 縦割り活動の良さを児童生徒が実感している

中期B	・・・	83.9%		86.7%
後期B	・・・	88.2%	→	76.5%
保護者	・・・	82.8%		91.3%

- 礼儀や規律が身についた

中期B	・・・	83.9%		83.9%
後期B	・・・	88.2%	→	100%
保護者	・・・	73.9%		82.8%

学校評価アンケートより

(H24とH25の比較)



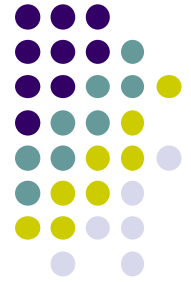
- ・「できた・わかった」という満足感を持って学習する子供が増えてきた

前期B	・・・	91.2%		100%
中期B	・・・	83.9%	→	90.3%
後期B	・・・	70.6%		82.4%
保護者	・・・	80.9%		79.7%

- ・「なぜ・どうして」という疑問を持って学習している

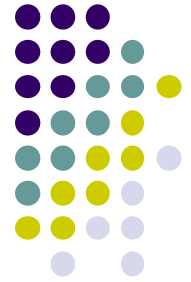
中期B	・・・	77.4%		93.5%
後期B	・・・	64.7%	→	76.5%
保護者	・・・	59.4%		67.2%

5年間の成果 子供たち



- ・学校教育目標と「目指す子ども像」の定着
特に、子どもたちの表現力が飛躍的向上
- ・安心して通える学校
身近なモデルがあり、子どもたちの集団が確立
- ・卒業後に頑張る子どもたち
高校生で英語留学、大学生でボランティア活動

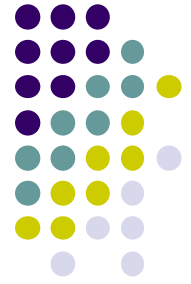
5年間の成果 学校



- ・「地域の学校」としての意識の高まり
- ・9年間のスパンで育てる
教員にも見通しとモデルがもてる
- ・3つの壁の設定
ブロックリーダー育成、到達目標の設定
- ・「つながり」の意識・発想の拡大
0～15歳の学校でできること
卒業後の姿を想像する

京都大原学院の使命と役割

～今、本校に期待されていること～



地域と一体となってボトムアップに作り上げた
小規模施設一体型小中一貫校のモデル

- ・震災による町づくりのモデルとして
- ・過疎化の進む村落のモデルとして
- ・自己有用感を生むモデルとして

自己有用感を生むモデルとして



最近では家庭での兄弟数も減り、家で年長者のモデルを見る機会がまれになりました。

小中一貫校では、この身近なモデルが見られることが大きな教育効果です。

下級生とのふれあいの中で『自己有用感』が高まり、頼られていることでいろいろな活動にはりあいが高まっています。

今後の展開 課題克服に向けて



- ①求めている「学力観」やその「評価法」の研究
「自己学習力」と「人間力・社会力」を育てる
- ②教職員の異動があっても変わらない体制づくり
コンセプトの共通理解、危機感を伝える
- ③保護者の支援理解体制
家庭学習・自主学習への協力依頼
- ④保護者・地域への学校報告
教育関係者以外にも、わかりやすく示す

大切にしてきたこと



- 地域の子どもを地域で育てる
- 一人一人を徹底的に大切に

それぞれの地域や
子どもたちの未来のために



ありがとうございました。